

第三回区民版子ども・子育て会議
世田谷の子ども・子育ての計画をチェック！

2019年9月5日 18時半～21時

成城ホール 集会室E

参加者 62名

世田谷区の子育て計画がどうなっているか、概要を説明いただきます。

その後に子どもの実態調査、アップスで行われたティーンエイジャーの会と続けて報告をお願いします。

【1】計画づくり担当の真鍋氏から

6年目になる会議、第二期を作るタイミングで区民版で計画を作ってきて、見直しの時期。

後期計画をつくっていくところで、素案ができたところで、ご意見いただいて足がかりにしていこうとしています。

各テーブルに2冊ほど素案を置いているので、関心ある方はお持ちください。

参照：世田谷区子ども計画（第二期） 後期計画 素案の概要

基本理念：子どもが健やかに成長・自立でき、また、安心して子どもを生み、育て、子育てに夢や喜びを感じることができる地域社会を区民と力をあわせ実現

第1章 計画の策定にあたって

平成27年から始まった法定で決められたもの

どれくらい保育園をつくるか、おでかけひろば、一時預かりの施設の需要がどのくらいあるか、5年で需要がどれくらい満たされたか。

令和元年で計画が終わり、令和2年で見直してどのくらい作るか、様々な子育てに必要な環境が必要か書いてあるのが子ども計画

今後5年間、これに基づいて計画していくなかに追加されたもの

1. 子どもの貧困対策
2. 子ども若者計画

第2章 計画の基本的考え方

目指すべき姿 2期のまま 「子どもがいききわくわく育つまち」10年後に目指すべき姿なので変えてない

基本コンセプト→子ども主体

1. つなぐ・つながる 沢山の居場所を支援、場につなげる お互いつながって補完しあいながら子育てを楽しめるように
2. 参加と協働 子どもの意見表明 子どもが自分の思った事を素直に表明できて、受けとめて一緒に考えていけるように
3. 地域の子育て力 手法をどうやったらできるか計画をつくる

第3章 重点政策

- 1) 子どもが生きる力を育める
- 2) 妊娠期からの切れ目ない支援
- 3) 基盤の整備・室の確保・向上
- 4) セイフティネット 令和2年4月～児童相談所の開設 子どもが何かあったときの最後の手段

第4章 計画の内容

身近な地区における相談支援

妊娠期から地域につながる 妊娠期からの切れ目ない支援 →世田谷版ネウボラ 妊娠期面接 90%の実施率 ファーストタッチ

妊娠期から地域につながるために
生活困難を抱える子どもの支援

後期計画のポイント

●子ども家庭支援センターと児童相談所

行政機関の責任

●子ども・子育てにかかる相談支援・見守りのネットワークの強化

全ての子どもの命が守られるように 予防的な段階で地域の中で子育ての不安を解消

地域で支える

児童館←地域資源が長い期間（妊娠期から青年期）使える場 ずっとつながっていただける場の活用

児童館を中心にネットワークをつくって仕組みをつくりたい

●子どもの貧困対策の推進

生活困難（相対的貧困）を抱える中学生は1割程度いる 見えづらい貧困をどうやってつなげて支援していくか

↓

支援につながる施策づくり

第5章 子ども・子育て支援事業計画

幼稚園のニーズ 12,200 →確保総計 12,582

1号認定 専業主婦

2号認定 就労している親

3号

2600程度の保育の場が必要とされている

ひろば事業 38万人ぐらい使える場ができている ニーズは45万 80か所が必要

第6章

若者計画

9月15日～ 区報でパブリックコメント募集する

概要版レベルで載っている特集号が出る予定

今回の場でもご意見いただきたい

【2】切れ目のない支援担当 津田さんから

参照：「世田谷区平成30年度 子どもの生活実態調査結果～子どもの貧困対策を考えるために～」

子どもの貧困対策を内包するとありましたが、子どもの貧困という意味で昨年子どもの生活実態調査をした

1) アンケート調査 子どもの学校種別に関わらず郵送での回答 42.9% + ヒアリング調査(支援者への聞き取り)

困窮している子どもの実態、課題に思っていること、貧困対策に必要なことなどを聞いた

2 p 7人に1人の相対的貧困にある → 所得だけでなく、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が保証されないリスク

- ・低所得
- ・家計のひっ迫(公共料金や食料が買えなかったか)
- ・体験や所有物の欠如

3つできていない → 生活困難層

全ての年齢で 1万2千人 生活困難層といわれている

多方面で影響を与えている

いろんな支援サービスがあるが、使いたいと思いつつ使えていない保護者も多い。

相対的貧困は見えにくい

世田谷区は安定した所得層が多い、貧困が潜在化している

300pほどの報告書を8pにまとめた

地域での勉強会などで必要な方は声をかけてください。

【3】8月7日に実施した子ども子育て計画の若者の意見を聞いた → 中村さん(カンペー)から報告

5時間かけて子どもの意見を聞いた→報告書は作成中

5グループに5,6人

中学生から20歳まで(主に中学生)

1) 世田谷は好きか嫌いか 好きメータ 0点から100点で点数をつけた → 平均は半分より上だった

グループによって 好きの理由が答えられないグループが多かった。不快でも不安でもないから好

き？実際は嫌いという言葉がでるグループも多かった。60点貼っていても、ごみがひどくてカラスが・・・とか、マックでたまれない、マックがない（学校によっては地域のルールがある）

好きとこいつつ、気になるワード 友達は多くなくてもいい 遊ぶ友達はそんなにいなくても楽しい →遊ぶ時間がない 暇な時間がない

ヒマな時間が足りない：共通ワード 「世田谷で過ごす子どもたちは平和」という意見

気になる子どもたちの意見では 自分の意見を聞いてもらえる存在の人に会えてない？ 要望はあっても具体的に伴走できる身近な大人がそんなに多くない？

属性（在学、在住という属性によってちがう） こういう意見はほしいという声は多かった

2) 世田谷がこうなったらいいのに （現状の課題から）

グループごとにカラーがちがった

活動に参加しているグループ、来たことない中学生のグループ、モノ申したいグループなど

➤ では、グループごとに自己紹介、素案をみて気になっていること、地域の中で聞いたことなどポストイットに書きだしてください。

話す中でエピソードを話すなどしたい。3人の話を聞いて気になっていることなど話してみてください。

19:45

1分で各グループのトピックスを

<1> 世田谷区のサービスはいっぱいあるが、ネウボラなどは転入者は受けられないし子育て利用権もない。

制度を受けられる人、受けられない人がいる

<2> 制度の話がでた たくさんあるが、申請しないと受けられない

→必要な人が受けられるためには関係性も大事だが、身近な人でも制度を知っている人がいないかも

実際にいかせるためには？ いろんな課題がまだまだありそう

<3> 多様な保育 親が多様、子どもも多様で、ニーズがものすごくあるなか、世田谷区もがんばっているが

週3で働く人にも、障害児、医療的ケア児への需要がある

<4> いろいろな話題もある中、児童館、学校、子ども食堂など連携が大事 安全管理にも情報共有が大事

<5> いろんな話題の中、子ども生活実態調査の生活困難層が1割いるのが驚き。親に頼りたくない人もいる。悩んでいることは繰り返される

夫婦の時間も大切と思っている人もいる 多胎の親が増えているが支援の不足 保育園の3歳以降の受け皿の心配がある

<6> 経済的貧困（体験の不足→自己肯定感が弱い） 富裕層にも体験の不足→自己肯定感弱いのはある

自己肯定感が育たないと自分がわからないことを声がだせない

<7> 児童館の役割 児童館最高の声あり。 子どもの相談をピアサポートになっている場もある
児童館の可能性

親でない人にも話を聞いてもらえる場 → 学校の先生が忙しい 働き方改革→在宅作業が増えているのでは？

<8> 情報を届けたい人に届けるのが難しい 中学生向けの居場所の冊子が読みたいと思うものまで
いってないのでは？

ひろばに大量の資料が届くが、必要な人に届くわけでもなく、大量の資料が毎年送られてくる
情報が届けたい人に届けるためにはどうしたらいいのか？

伝える側の大人が皆で考えないと・・・今の子どもたちは文字を読まなくなっている（漫画です
ら・・・）

助産師さんは性教育の話もしたい

後半20：10まで休憩 他のグループのも見てください

➤ では、どうしたら？をこれから話してもらいたいです →緑色のポストイットに話したことは書いて
いただければ助かります

20：35－発表タイム 1つの班1, 2分

<8>子どもやお母さんは自分にメリットないと見ないので、メリットを表に出してほしい

アプリよりLINEで情報を拡散する方が見る。前期の5か年の評価をしっかりと出してほしい

学校の話。 学校のなかでの先生は教育に集中して子どもたちの居場所になっていないのが課題

<7> 子どもの声に寛容でない 理解を増やしていかないといけない 子どもは地域の宝だという理
解を広めれば、いろんな人が来れる複合施設に理解度がないとできない 空き店舗など子どもが
歩いて行けるところで、地域で何かできる仕掛けを

災害時には、普段からいい人でないと助けてもらえない → 理解をひろめていく

<6> 本音で話せる場（親も子どもも） 主体性をもって参加する場はあるがハードルが高いのでは？

受け止めてもらえる体験が大事。子育てというプロジェクトはいつ終わるのか？と聞いた人が
いた。子どもが自分とは別人格とは認められない 子どもは自分とは別人格。つまづいたら別世
界がひろがるが、自力でやるのは難しい場合もある。自分でものがいえない。 子どもの立場や
親の立場を伝えられる ソーシャル家庭教師が必要では？

<5> こども食堂を長く続けてほしい プレーパーク、児童館、保育園を利用するのはどうだろうか？
施設利用できたらいい

作って食べるだけでなく、一緒に作れる場、おじいちゃん・おばあちゃんが活躍できる場に
ファミサポのマッチングできてないのを活用できるようにするには？ → 補助？ 保育園の
保育士も活用したら？

<4> サービスを届ける人に届けるには？

1) 施設に物理的に行けない、情報届いてなくて行けない 妊婦のタクシーを利用できたら行きやすい

のでは？

低年齢はおでかけひろばに行きやすいが、2歳を超えたら児童館につなげる

→クーポンでスタンプラリーで得点をつけてつなげる おでかけひろばと児童館をつなげる 複合的なデパート的な施設も

2) イベント情報も届かない 子ども食堂や地域のお祭り情報をトータル的に見れるサイト？

アプリ？ データをオープンに提供して民間がになうなど

< 3 > 前半は保育の話、後半は放課後の居場所 学校が居づらい 不登校の問題 一分野だけの問題では 教育、保育一緒に話さないと解決しない

学童保育の問題 現状の世田谷区の形式では課題

< 2 > 必要な人に情報を届ける 自分が忙しいと気づく若者 子どもが気づいてない 子どもが多様な大人に出会う、きっかけをつくる

具体的ななにか →支援者事態も官民連携、地域で自相問題 マッチングサービスで顔の見える場を

ポーっとする時間 根拠をうったえるべきか？プログラムをかんがえるべきか？ ポーっとするウィークを区が提唱

< 1 > いろんな人たちがいることをうまく使えたらいいよね つなげる仕組み

いろんな子どもたちの居場所 夕方から夜にいられる場 今ある施設をうまく使えないか？
(児童館なども)